

## ポットカバーの試作研究

鷲野 谷昇\*

### 1. 緒 言

真壁地区陶土器業界で使われている粘土は、真壁町周辺の水田の下から採掘され、数ヶ月間ネカシた後、常圧土練機で混練し、仕立鉢・菊鉢等を製造している。これらの製品は、750～800℃（仕立鉢）800～850℃（菊鉢）で焼成されているが、焼成条件により素地の色合いに変化が見られる。色調は黄橙から赤橙と焼成温度が高温になるにつれ濃く変化する。これらの色合いは、観用植物のグリーンを鮮やかに引き立てる効果（補色の関係）がある。このような特性を活かした商品開発として、ポットカバーの試作を試みた。

### 2. 内 容

#### 2. 1 素地の調整

従来の真壁粘土を高温で焼成すると、素地中の砂利等で表面に亀裂（右ハゼ）が生じたり、キレの原因となるため原土を水簸し、篩（50）を使って雑物、小砂利を取り除いた。

#### 2. 2 成形

ロクロを使って任意の形状に成形し、表面にヘラを当て滑らかにする（半乾燥の時に磨き易い、また発色も良くなる）。

#### 2. 3 研磨・スクラッチ加飾

ムロの中で均一に半乾燥させ、金ベラを使い表面を磨く。研磨することにより良好な呈色が得られる。またスクラッチ模様を加えるとエキゾチックな雰囲気となり、インテリア用品としての商品性も高められる。

#### 2. 4 焼成

今回の試作では電気炉を使用した。焼成条件により任意の呈色を選定できることが確認された。

### 3. 結 言

今回の研究から、真壁陶土器業界における新商品開発としての一方向を探ることはできたが、まだ改善すべきところも多く、今後も続けて取り組む課題である。一村一品運動を機に、全国的にモノが作られているが、成功例をあまり見ないっ作れば売れる時代はもう過去のことである。地場産業支援においても、長期ビジョンのちとに新たな活性化対策が必要と思われる。

\*窯業指導所工芸部



ポットカバー試作品